

シティライフ学部へ、子ども生活学部の開設



第2代学長
一河 秀洋

地域創生を知之拠点として支える大学

私が大学づくりに参画したのは、学園が創立100周年事業として大学を設置する決断をされた1990年代半ばです。須賀淳理事長(当時)から依頼を受け、日本大学の田中啓一先生と学園顧問の村瀬峻一氏と共に、「地域に開かれた大学」、「地域に貢献する大学」を作りたいと考えました。地域から学生をお預かりし、「地域の発展に貢献できる地域のリーダー」を送り出すため、開拓者スピリッツのあふれる那須の地で、栃木県や那須塩原市の協力を得て「新しい大学づくり」を始めました。

当時の日本は、ヒト・モノ・カネが東京に集中していることが大きな問題になった時期で、首都機能移転の最有力候補地が那須地域に選定されました。「経済の中心が東京」に対し、「政治の中心は那須」に移すという構想でした。首都機能移転は残念ながら頓挫しましたが、首都機能の一部を東京以外の場所に移し、国全体の危機管理能力を高めていくという国家的命題は、現在の課題でもあります。

大学設立当初は理解してくれる人が少なかった「地域に開かれ、地域に貢献することが大学のミッション」、「地域の人材育成と知之拠点として大学は存在すべき」という考え方は、創設から20年を経て「地方創生」という言葉になって、日本全国で受け入れられるようになったことを、大変うれしく思っています。

大学が那須から北関東最大の都市、宇都宮にステージを移し、若者たちがまちづくりに参画し、シティライフ学部・子ども生活学部が共に協力して様々な成果を上げていることはご同慶の至りです。これは、宇都宮共和大学の学生が、「都市の生活や暮らしを見つめ、主体的に行動する市民として、社会の一翼をになう人材」に育っていることを示すもので、誇りに思います。

今後も、宇都宮共和大学の益々の発展をずっと応援し続けたいと思います。



子ども生活学部 初代学部長・名誉教授
牧野 カツコ
子育て支援研究センター長

宇都宮共和大学は、2011年の子ども生活学部の開設とともに“人づくり”と“まちづくり”を両輪に学ぶユニーク大学になりました。人間の誕生から高齢期まで、人びとの成長と発達、生活と地域を豊かにするための教育研究を行っています。地域の環境・産業・文化・人間などを総合的に見つめる本学の全人教育は、これからますます重要になることでしょう。

宇都宮共和大学子育て支援研究センターでは、地域の子どもが健全に育つことができる生活環境の向上に役立つよう、様々な活動を教員と学生が一体となって頑張っています。



宇都宮短期大学 副学長
直井 文子
音楽科学科長

20歳を迎えた頼もしい宇都宮共和大学に、創立半世紀の長坂キャンパスから心よりお祝いを申し上げます。この間、次世代の人材養成を担う「子ども生活学部」が加わり、宇都宮短期大学では豊かな心を育てる「音楽科」、暮らしを育む「人間福祉学科」、健康で豊かな食生活のための「食物栄養学科」が一体となって、「We're Fine!」の歌を謳っています。

これからも夢が大きくふくらむ社会づくりに向けて、個性と感性を磨きあう、活気にあふれたキャンパスであることを願っています。